

# 猪熊弦一郎展 「いのくまさん」

会期：2019年7月13日(土)～9月1日(日)



《自画像》制作年不明

絵本『いのくまさん』(小学館発行)は、洋画家・猪熊弦一郎(1902-1993)の作品の魅力をこどもたちにもわかりやすく紹介した本です。

本文は詩人の谷川俊太郎のシンプルかつ軽妙なタッチの言葉で綴られ、頁をめくっていくと、猪熊弦一郎の多彩で生命力にあふれた世界が広がります。本展はこの絵本をもとに構成した、大人から子供まで楽しめる展覧会です。

猪熊弦一郎は香川県に生まれ、東京美術学校(現・東京藝術大学)の藤島武二教室で西洋画を学びました。1936年に小磯良平らと新制作派協会(現・新制作協会)を結成。東京、パリ、ニューヨーク、ハワイと拠点を移しながら、マティス、ピカソ、藤田嗣治、イサム・ノグチ、イームズ夫妻など、様々な芸術家と交友を深め、彼らに刺激を受けつつ独自の画風を追求しました。その制作活動は幅広く『小説新潮』の表紙絵を40年間担当したほか、三越の包装紙「華ひらく」のデザインや、JR上野駅中央コンコースの壁画《自由》の制作を担ったことでも知られています。本展では、絵本の「顔」「鳥」「猫」「形」「色」といったテーマに沿って初期から晩年までの作品群を紹介します。「いのくまさん」が生み出した魅力あふれる絵画を巡る旅をお楽しみください。



《マドモアゼルM》1940年



《題名不明》1987年

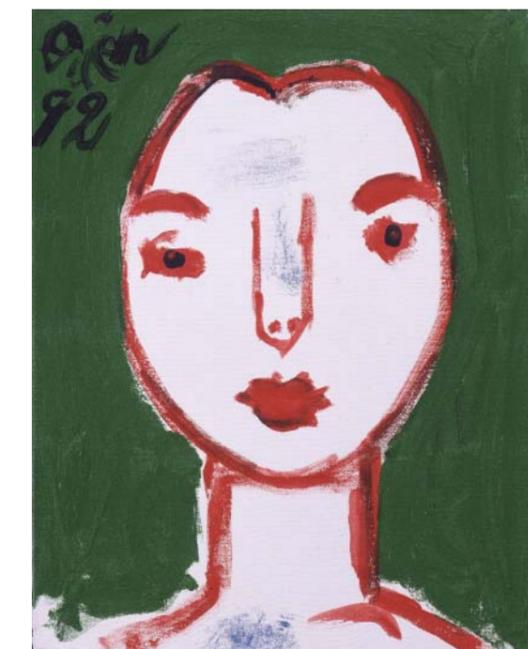


《題名不明》1954年

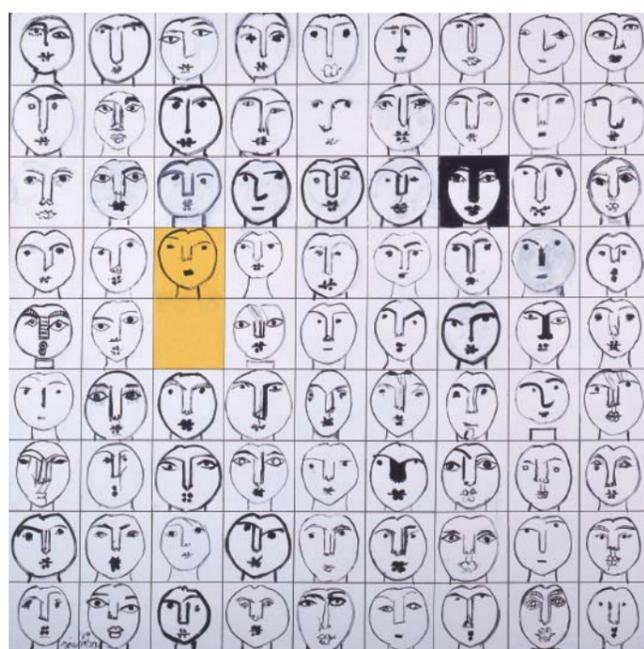
みどころ①会場では、詩人谷川俊太郎の言葉と、洋画家猪熊弦一郎の作品のコラボレーションが楽しめます。  
②猫好きだった猪熊さん。様々な猫を描いた作品がたくさん登場します。猫好きな人は必見です。  
③絵本の世界観をお楽しみいただく他に、昭和の時代を彩った猪熊さんのデザインの仕事も紹介します。



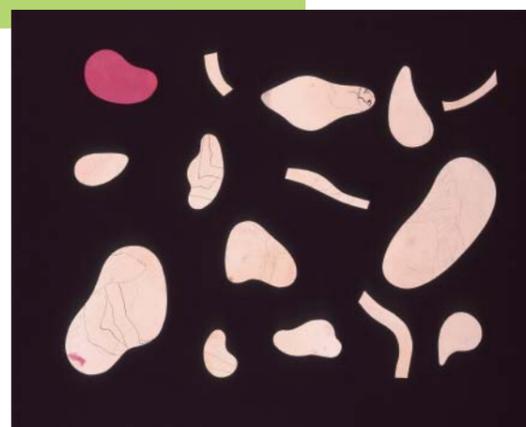
←左から順に  
《題名不明》1992年  
《顔、犬、鳥》  
1991年



《顔バック緑》1992年



《顔80》1989年



↑左から順に  
《三越包装紙「華ひらく」型紙》  
1950年  
《驚く可き風景(A)》1969年  
《The City(Green No.1)》1968年  
\*作品は全て  
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵  
© The MIMOCA Foundation



【主催】 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、読売新聞社、美術館連絡協議会、日本海テレビ  
【特別協力】 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団  
【協賛】 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜  
【開館時間】 10:00～18:30(入館は18:00まで) 【観覧料】 ※( )内は、20名以上の団体料金  
[企画展] 一般1,000(800)円、大学生600(450)円、小中高生300(250)円  
[企画・コレクション展セット] 一般1,150(920)円、大学生700(530)円、小中高生300(250)円  
【問合せ】 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントワ」内 島根県立石見美術館  
担当：吉岡(広報)、左近充(学芸) TEL0856-31-1860/FAX0856-31-1884 <http://www.grandtoit.jp>